

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 松江市島根小学校 ～

1. 概要

6月20日(火)、松江市立島根小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。小学校の近くにある古墳や
はにわについての学習(座学)をしたのち、体験活動としてはにわ作りをしました。この授業を通じて、児童たちは自
分たちの身近に意外に多くの古墳があることに驚き、「実際の古墳に行ってみよう」と興味をもつことができたと思
います。また、はにわ作り体験では、とても難しかったという意見が多かったと同時に、もっと様々な種類のはにわづく
りや、まが玉づくりも希望する生徒も少なくなく、開催できてよかったと思いました。

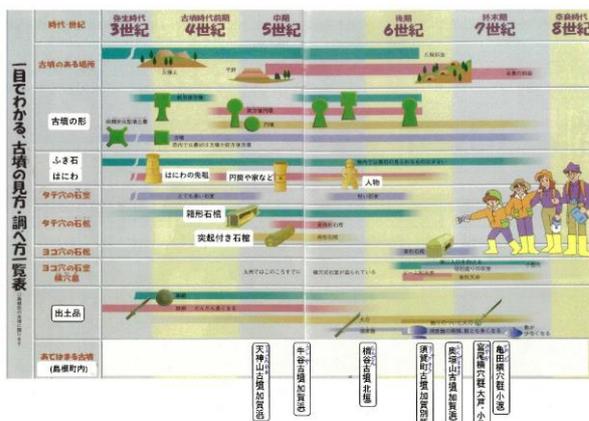
2. 学習の様子



「松江市内には全国的に有名な埴輪があります」



「はにわづくりのコツを教えます！」



『いにしへの島根ガイドブック』より



「町内の出土品がなかったのが残念…」

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・はにわづくりは、(とくに顔をつくるのが)とても難しかった。
- ・もっといろんな形の埴輪をつくってみたい。
- ・なぜ埴輪がつくられたのか、どうやってつくったのか、もっと知りたい。
- ・古墳時代の埴輪づくり道具について、もっと知りたい。
- ・古墳時代の人は、大きな埴輪をつくることは大変だったろうと思った。
- ・島根町内に古墳があることにびっくりした。現地に行ってみよう。もっと詳しく知りたい。
- ・なぜ一人のために大きな古墳をつくったのか知りたい。

- ・古墳時代以外の遺跡についてももっと知りたい。
- ・まが玉についても、詳しく知りたい。つくってみたい。
- ・発掘のようす・方法を知りたい。また、ミニ古墳づくりがしたい。

2) 担任の先生から…

- ・自分たちの住んでいる地域の古墳について興味をもって学習できた。はにわづくりも意欲的に取り組めた。
- ・説明する時に、子供たちとやり取りする場面や、グループで考えさせる場面を導入すれば、より良い授業となると思う。
- ・「子ども塾」のプログラムは、子供にとって魅力的であり、もっといろいろな活動を申し込みしたかった。

3) 埋文センターから…

最初に「みんなの住んでいる町に古墳はいくつあるでしょう？」と質問したところ、ほとんどの児童が「自分の住んでいる町には古墳はない」との返事でした。実際にある古墳のある場所、写真・図面を見せて説明すると、みんな驚いた表情をするので、とてもやりがいを感じました。本物の古墳にも行って見たいという意見もあり、学校周辺の古墳については事前に（計画的に）草刈等の諸準備ができるようにしたいと痛感しました。

埴輪づくり体験は、短時間に興味をもって取り組んでもらうために、実際の埴輪づくりとは異なる粘土工作になってしまっている点が気になります。粘土採掘から野焼きまで、時間をかけて行う本格的な埴輪づくり体験にも、いつかはチャレンジしてみたいと思いました。

文化財子ども塾は、できるだけ多くの学校で、2 時間程度の短時間で行う授業であり、上述したような取り組みは難しいのが実情です。しかし、年に2, 3校は本格的な授業ができないかとも思います。また、古代体験や遺跡見学についてもルーティンワークになっていないか、自己点検しながら新たなメニューを開発していきたいと思います。